

【 在宅看護論 】

授業科目	在宅看護概論		対象学年・時期	2年生・前期
			単位数	1
			時間数	1
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1 (45分)
学習目標	1. 日本の社会の動向を把握し、在宅における看護の必要性が理解できる。 2. 在宅で療養する対象とその家族が理解できる。 3. 在宅看護の役割・機能が理解できる。 4. 在宅看護の歴史的変遷を知り、社会制度との関連が理解できる。 5. 在宅で療養する人々の尊重と権利を理解し、看護の役割を学ぶことができる。 6. 在宅におけるチームケアの意義を知り、継続看護の必要性が理解できる。			
回	主 題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 在宅看護の目的と特徴	1) 在宅看護の特徴 2) 在宅看護の位置づけ 3) 在宅看護の目的		講義 VTR
2回	2. 在宅看護の対象者と生活	1) 在宅看護の対象者 ①健康レベル ②年齢・役割・家族のライフスタイル ③地域・環境 2) 対象者の生活 3) 家族の支援 ①家族機能の特徴と変遷 ②在宅看護の対象者としての家族		講義 グループワーク
3回	3. 在宅看護活動の始まりと歴史的変遷	1) 保健福祉と高齢者保健福祉対策 2) 在宅看護の現状 3) 世界の訪問看護の動向		講義
4回	4. 在宅看護における役割と機能	1) 看護師の役割と機能 2) 生活の中で必要となる安全管理 3) 看護の提供方法 ①外来看護 ②訪問看護 ③施設での看護		講義 グループワーク
5回	5. 在宅看護における権利の保障	1) 自己決定の支援 2) 個人情報保護と情報開示 3) 権利擁護・成年後見人制度 4) 虐待の防止		講義 グループワーク
6回	6. 訪問看護の概要	1) 訪問看護制度の理解 2) 介護保険制度・医療保険制度 3) ケアマネジメント 4) 訪問看護サービスの仕組みと継続性		講義
7回	7. 療養の場の移行に伴う看護の継続性	1) 入院機関、施設と在宅を結ぶ看護の連携 2) 退院支援・退院調整のプロセス 3) 地域包括ケアシステムにおける多職種連携		講義 グループワーク
8回	筆記試験			
評価方法	筆記試験、課題提出			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院,			
参考文献	渡辺裕子監修：在宅看護論 I 概論編, 日本看護協会出版会 櫻井尚子他：地域療養を支えるケア, メディカ出版 国民衛生の動向			

授業科目	在宅看護援助技術：診療の補助技術		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	16
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 在宅看護を展開するための援助方法と基礎的技術を身につける。 2. 生活援助用具とその利用方法を理解する。			
回	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 在宅における医療管理に伴う援助技術	1) 褥瘡管理 ①褥瘡発生のリスクアセスメントと発生予防 ②褥瘡のアセスメントと処置 ③除圧・体位変換に関する器具の種類と選択		講義・DVD
2回		2) 膀胱留置カテーテル法 ①対象者 ②在宅での管理方法 ③合併症の予防		講義・DVD
3回		3) ストーマ(人工肛門・人工膀胱) ①対象者 ②生活の工夫 ③合併症の予防		講義・DVD
4回		4) 胃瘻・経管栄養法 ①対象者 ②栄養剤の種類と特徴 ③栄養評価 ④合併症の予防 5) 中心静脈栄養法 ①対象者 ②栄養剤の注入方法と評価 ③合併症の予防		講義・DVD
5回		6) 酸素療法 ①対象者 ②機器の種類 ③合併症の予防 ④安全管理と援助		講義・DVD
6回		7) 人工呼吸器(非侵襲的換気療法) ①対象者 ②人工呼吸器の原理・構造 ③気道の浄化 ④合併症の予防		講義・DVD
7回		8) 薬物療法 ①服薬状況の把握 ②医師及び薬剤師との連携 ③外来通院中の在宅療養者に対するケア(麻薬・化学療法)		講義
8回		9) 疼痛緩和 ①在宅における疼痛緩和ケア ②疼痛緩和ケアの適応		講義
評価方法		筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論(医学書院)			
参考文献	木下由美子：新版 在宅看護論(医歯薬出版) 在宅看護技術—その手順と指導ポイント(メヂカルフレンド社) よくわかる在宅看護(Gakken)			

授業科目	在宅看護援助技術：日常生活の援助技術		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	13
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 在宅看護を展開するための援助方法と基礎的技術を身につける。 2. 生活援助用具とその利用方法を理解する。			
回	主題	学習内容及び方法		授業方法
1～2回	1. 在宅看護における基本技術	1) コミュニケーション技術 (1) 訪問時の基本的マナー ①訪問前の準備 ②訪問時の対応 ③訪問後の整理 (2) 在宅看護に必要な面接・相談技術・指導技術 2) 観察の技術 ①呼吸機能 ②嚥下機能 ③排泄機能 ④活動機能 ⑤認知機能		講義
3回	2. 日常生活の援助技術	(1) 食事・栄養の援助 ①摂食・嚥下障害時の援助 ②栄養補助食品の種類と選択方法 ③口腔ケア		講義
4回		(2) 清潔の援助 ①在宅で実施する清潔方法の種類と方法 ②清潔ケアと社会資源の活用		講義
5回		(3) 移動の援助 ①自立支援と安全の確保 ②補助具の使用 ③自立移動に必要な筋力評価と強化方法		講義
6回		(4) 排泄の援助 ①排泄状況と障害 ②便秘の予防と援助(排便) ③尿・便失禁の援助		講義
7回(45分)		(5) 認知機能のアセスメント法と援助技術 ①認知機能のアセスメントと援助 ②認知機能のアセスメントが必要な療養者への在宅看護 ③認知機能に障害を持つ在宅療養者への看護		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)			
参考文献	木下由美子：新版 在宅看護論 (医歯薬出版) 在宅看護技術—その手順と指導ポイント (メヂカルフレンド社)			

授業科目	在宅で療養する対象の看護		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	15
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 在宅看護を展開するための方法を理解する。 2. 社会資源を活用し、他職種と協働する中での看護の展開を理解する。			
回	主題	学習内容及び方法	授業方法	
1・2回	1. 在宅における連携とマネジメント	1) 医療機関との連携 ①地域連携パス ②外来・地域連携部門との連携 ③他職種との連携・協働 2) 在宅におけるチームケア ①地域包括ケアシステム ②チームケアの意義と実際 3) ケアマネジメント・ケースマネジメント ①概念 ②プロセス ③実際 ④社会資源の理解と活用	講義 グループワーク	
3・4回	2. 在宅看護の実際	1) 在宅看護の展開 ①在宅看護過程の特徴 ②情報収集とアセスメント ③目標・評価 ④実施と評価 2) 在宅看護介入時期別の特徴	講義 グループワーク	
5回		3) 在宅看護における安全性の確保 ①医療事故防止 ②感染防止 ③療養生活上の安全確保 ④災害時の在宅看護	講義	
6・7回		4) 日常生活動作の低下及び疾病の再発予防が必要な療養者の看護 ①状態のアセスメントと環境調整 ②療養者・家族のセルフケアマネジメント力を維持高める支援	講義	
8回(45分)		まとめ	講義	
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)			
参考文献	国民福祉の動向、国民衛生の動向 木下由美子：新版 在宅看護論 (医歯薬出版)			

授業科目	在宅で療養する対象の看護		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 在宅看護を展開するための方法を理解する。 2. 社会資源を活用し、他職種と協働する中での看護の展開を理解する。			
回	主 題	学習内容及び方法		授業方法
1回	1. 在宅看護の実際	1) 急性期にある療養者の看護 ①緊急性と重症度のアセスメント ②状態に合わせた対応・調整 ③急性症状への対応		講義
2回		2) 回復期（リハビリテーション期）にある療養者の看護 ①脳血管障害の療養者に対する看護 ②合併症の予防と対応 ③居住環境の調整 ④社会資源の活用・調整、補助用具の種類と選択方法		講義
3・4回		3) 慢性期にある療養者の看護 ①認知症の療養者に対する看護 ②呼吸障害（COPD）の療養者に対する看護 ③難病（パーキンソン病・ALS）の療養者に対する看護 ④精神障害の療養者に対する看護		講義
5・6回		4) 終末期（がん）の療養者に対する看護 ①症状マネジメント ②緩和ケアの実際 ③看取りの看護 ④家族へのグリーフケア		講義
7回		5) 小児の在宅療養者に対する看護 ①在宅療養継続のための療養者の健康管理 ②療養者の自立支援とQOLの維持・向上（尊厳保持、成長、権利擁護を含む）のための在宅療養支援 ③在宅療養継続のための家族支援		講義
評価方法		筆記試験		
テキスト		系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）		
参考文献	国民福祉の動向 国民衛生の動向 木下由美子：新版 在宅看護論（医歯薬出版）			

授業科目	在宅看護論演習		対象学年・時期	2年生・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 訪問看護における初回訪問の目標達成に向けた行動と態度を理解できる。 2. 在宅で療養する対象の事例を通して、生活を重視した看護過程の展開ができる。 3. 在宅看護における日常生活援助技術が理解できる。 4. 在宅看護における医療管理を必要とする人との看護技術が理解できる。			
回	主 題	学習内容及び方法		授業方法
1回～2回	初回訪問	1. 訪問看護におけるマナー 2. 初回訪問を計画		講義 グループワーク
3回	初回訪問	3. 初回訪問を計画ロールプレイグ		ロールプレイ(実習室)
4回～ 12回	在宅看護 過程展開	1. 在宅看護過程展開の特徴 ①情報収集②アセスメント③看護計画④実施⑤評価 2. 対象の状態に合わせた適切な援助計画 ①ケアマネジメント：社会資源の活用/多職種との連携 ②生活の場 ③療養者及び家族支援 ④在宅における安全性の確保 3. 事例の看護 ①脳血管障害後遺症のある療養者(回復期) ②難病で在宅療養をしている療養者(慢性期) ③癌終末期の療養者(終末期) *事例を選択して、看護過程展開を行う。(個人・グループ) *情報収集とアセスメントは個人ワークで行い、提出する。 (個人ワーク、情報収集・アセスメントまでを6回終了時に提出) *個人ワークしたものを踏まえて、グループワークを行う。 (看護計画立案までを行い、9回終了後提出する) *訪問看護の計画をして、援助場面をロールプレイングで行う。(10回目に訪問看護計画を立て、援助の準備をする) *訪問看護計画書の作成 4.訪問看護のロールプレイング後、振り返りを行う。 *訪問看護報告書の作成		講義(教室) グループワーク ロールプレイ (実習室)
13回～ 15回	在宅療養 生活を支 える援助	1. 食事機能低下時の援助(食事内容の選択、食材の調達) 2. 排泄機能低下時の援助(排泄用具の種類と選択、便・尿失禁の予防、便秘の予防(摘便)) 3. 清潔の援助(清潔方法の種類と実際)		演習(実習室)
評価方法	看護過程展開提出物・課題提出物			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院,			
参考文献	渡辺裕子監修：在宅看護論 I 概論編, 日本看護協会出版会 櫻井尚子他：地域療養を支えるケア, メディカ出版 国民衛生の動向			